

の 広報 た か も り

発行 阿蘇郡高森町役場 TEL (高森局09676) ②0611 [代表]

人 口

— 6月30日現在 —

人 口 10,115人 男…4,821人

女…5,294人

世帯数 ……………2,603

転入 41 出生 7

転出 40 死亡 9



とじておくと役立ちます

第168号
昭和48年

8月1日

— おもな内容 —

- 有望視される「国民休暇村」……………2
- 蒜山国民休暇村を視察して……………3
- 道路補装基地と老人ホーム完成……………4
- 大型桑園団地お目見え（岩神地区）……………5
- ヒメユリの保護を……………6
- 高森その歴史（ヨナ害への怨念）……………7
- みんながつくる町民のひろば……………9
- 町民文芸・おめでたおみやみ……………10

夏は若人の季節。照りつける陽光が広い草原にそそぎ、テント村では、ギターを弾きながらヤングたちの楽しい歌や語らいが続きます。

ここ根子岳のふもと「鍋の平キャンプ場」も七月十日に開村、連日若いキャンパーたちが押しかけています。放牧牛が草をはむ広いスロープには、涼風が吹き、色とりどりのテント村ができて、草原は若さが溢れんばかり。グループごとにゲームをしたり、キャンプファイヤーを囲んで友情をあたためています。

日ごろの学校や宿題のことなどすっかり忘れ、若者たちは短かい夏のバカンスに余念がありません。

にぎあうキャンプ場



- ▷ 8月5日 小林医院 高森②0075
- ▷ 8月12日 本田医院 高森②0016
- ▷ 8月19日 後藤医院 河陽 19
- ▷ 8月26日 平田医院 高森②0216

有望視される「国民休暇村」

草河原一帯

高森町は「国民休暇村」誘致の名乗りをあげ、国、県への要望を続けていたが、県でも自然環境の恵まれた本町に誘致する方針を固め、このほど環境庁に對して、国民休暇村設置についての要望書を提出しました。写真見聞から見たラクダ山

国民休暇村というのは、国立公園や、国定公園内に健全で使用料の安い公共施設を提供する目的で、国が三十五年度に制定した制度です。政府の予算で、これまで全国に二十カ所、九州では志賀島（福岡）と指宿（鹿児島）の二カ所だけが建設されています。環境庁は、本年度において新たに五カ所を予定しており、九州では高森町のほか、宮崎、大分など五、六市町村が誘致を働きかけているそうです。しかし、高森町の場合は大阿蘇をひかえた国立公園地内であること。九州の中央部に位置し、高原の特性を生かした野外活動の拠点としてすぐれていることなど誘致の実現がかなり有望視されています。

町経済に多大の効果



県も誘致に乗り出す

これまで町では、県観光課とともに綿密な連絡をとって、国民休暇村の計画を策定していますが、県側も、ぜひ本町に誘致したい意向を示しており、さる七月七日には沢田県知事、大塚県林務観光部次長ら一行が来町、候補地となっている遠見塚台地を中心とした草河原地区一帯を視察しました。この地は国道二六五号線沿いにあり、同三二五号線も近く、南郷谷と阿蘇五岳が正面に望みできる景勝地です。五十年には南阿蘇登山道路が、五十二年には国鉄高森・高千穂線がそれぞれ開通される予定で、将来は九州における中核的機能を果たし得るものと期待されています。

現在、町および町議会では国民休暇村誘致特別委員会を設置して用地の確保、財源措置等の検討を加えておりますが、町民の皆様も国民的資産としての見地から総意をあげて国民休暇村設置実現のためご協力ください。



草河原を視察する県知事たち

園地区、乗馬、サイクリングコース、林間散策路などを配し、その中にテニスやバレーボールコートなどの施設を造る計画です。これらの施設は、すべて日本国民休暇村協会が経営します。いっぽう、このようなレクリエーション施設ができれば①宿泊施設、キャンプ等に使う食糧の供給

集約酪農地域の指定地

高森観光開発促進協力会（山村一郎会長）は六月下旬、岡山県高森町長年の懸案であった国民休暇村の誘致が、ようやく本決りになるうとしている折から、この指定促進をはかる目的で、この趣旨に賛同された町側から、町長代理瀬井助役、議会から松田議長が参加され、大変意義のある視察旅行となった。

中国山地の中央部、岡山県の最北端に位置するところに蒜山三座



酪農地域に指定されている。国民休暇村は、その一角に約七十畝の敷地を有し、三十八年開村以来本年でちょうど十周年を迎え、施設も新築の本館を加えて、いよいよ充実している。

四季別にそれぞれ特徴

宿舎は本館、別館、ロッジの三ヶ所、収容定員計三百八十二人。

成功した地元雇用対策

蒜山国民休暇村を視察して

長山吉彦



殆んどを兼ね備えている。蒜山休暇村は、まさに理想的な休暇村と云えよう。

休暇村従業員は地元民

蒜山国民休暇村を持つ地元川上村役場の調べによると、昨年ここを訪れた観光客は約七十三万人、一日平均では約二千人の人達がバスやマイカーなどで流れ込み、色々のかたちで滞在していく。その

動脈となる岡山、鳥取にまたがる道路は有料を含めて快適であり、所要所要に設けられている駐車場は、広過ぎると思われるほどのスペースがとってある。

しかし、米子・蒜山・岡山を結ぶこの三百キロのドライブウェイもまた、広い駐車場も、最盛期には自動車各地に溢れるそう、休暇村からその周辺にかけての混雑が予想できる。

休暇村で働く人達の人員構成は支配人以下約六十人で、すべて地元の人達で構成されている。なお、キャンプ村開村中のアルバイト百五十人も、すべて地元のこととで、雇用関係はうまくいっている。その他の人達は、休暇村以外の観光客の足止め策を積極に行っているようで、沿道には共同経営のレストハウスや売店などがあり、聞くところによると、一応成功しているとのことであった。また、少し離れた部落には、民宿の看板が随所に見られ、民宿の利用度合いが推測される。

ここで高森と蒜山とを比較対照してみると、すべての点で非常に似かよっている。特に、春から秋にかけての特徴は、まったく同じである。ただ冬場のスキーが占める経済的ウェイトは、かなり大きく、高森も冬場をいかにして活用するかが、こんごの大きな課題になるだろう。

その他には、むしろ高森のほうが蒜山より好条件が揃っているように思われる。例えば、高森は鉄道が通っているとか、九州で唯一の内陸型の山間休暇村である、などである。

以上で蒜山視察記を終るが、高森には高森の良さがあり、その特色を生かしたユニークな休暇村と、その周辺を一日も早く実現したいものである。（筆者は高森町商工会青島部長）



写真上は高森町に建設されたアスファルトプラント 写真下は長陽村河陽にできた養護老人ホーム「湯の里荘」

道路補装基地と老人ホーム完成

つたもので、名称は「湯の里荘」といいます。

場所は同村西野宮西側の高台にあって、国、県の補助金と六カ町の負担金で建設されました。総事業費は八千二百二十八万円。建て面積は千七百六十六平方メートル。鉄筋コンクリート二階建ての収容棟二棟と管理棟（平屋建て）一棟の計三棟で、エンチ色をした屋根つきのモダンな設計です。収容定員は五十人。

施設内容は六帖二人制の入居室二十五室のほか、事務室、医務室、静養室、五十人収容の集会室、食堂などがあります。全館暖房つきで、とくに同施設には、県下でも珍しい温泉を利用した広い浴場があり、入居したお年寄りたちの快適な生活が配慮されています。

施設の職員は事務員二人のほか生活指導員、看護婦、調理士、寮母など十人が入居老人の養護にあたり、適切な生活指導が行なわれるように配置されています。

ところで、七月末現在の入居者は十七人で、定員にまだゆとりがあるため、事務組合では、もし六十人以上の方で、入居希望者があれば、近くの民生委員、もしくは役場福祉係に申し出てくださと呼びかけています。費用は前年度分の町民税の課税に依りて基準が定めてあります。

南阿蘇広域事業二つの施設

南阿蘇広域事業として、高森町など六カ町村には、これまで母子健康センターの建設が本決まりするなど、着々成果をあげていますが、このほど、阿蘇広域事務組合事業組合によるアスファルト・プラントが本町内に完成。また、長陽村河陽には、阿蘇南部広域事務組合による養護老人ホームがお目見えしました。二つとも、広域行政の要望に応じて、施設の近代化、合理化を図ったものです。

アスファルト混合物のできる過程は、ほとんど自動化されており、一人の作業員でも十分運転できます。

また、このアスファルト・プラントは「常温混合式」という砂と

ファルト・プラントの完成で、一段と進捗率が早まるものと期待されています。

身寄りのない老人福祉充実のため、長陽村河陽に建設中だ

大型桑園団地お目見え

岩神地区 専業で年収200万円めざす



広大な面積をもつ岩神桑園

さる十月

現しました。

二月着工した本町岩神地区の岩神桑園造分譲事業は、二

千四百八十二万円をかけ熊本県生産開発事業団の手で造成が進められていたが、このほど県蚕試、県養蚕連、養蚕指導所、受益農家の五者共同による桑苗の植え

いま町の桑園面積は、この新規造成分を入れて百十三畝。県下でも有数の桑園地帯となりました。

これは農業構造改善事業による上色見、赤羽根両地区の桑園が完成したこと、ここ数年らしい絹織物の需要増を背景に新規の養蚕農家がふえたためです。このため高森養蚕農業協同組合（佐藤磨組合長）百二十戸）では、蚕増産をはかるため、経営規模の拡大、省力技術の導入などにも取り組み、本年度は年間一億円（五万坪）の粗収入をあげる計画です。

花火遊びに注意

手もとに消火水

ことしになって、県下では早くも子どもの花火遊びによる火傷や、火災事故が数件発生しております。

辛い軽いケガやボヤですんでいますが、ひとつ間違えば大ケガや大火災になりかねないものです。

夏休みにはいり、子どもさんが花火をする機会がますます多くなります。

そこで、とくに子どもさんをお持ちのお父さんお母さん方は、次

られています。

この結果、からだのたるみ、心臓機能がおとろえ、抵抗力がなくなるといわれています。

そこで、暑さによる疲れを防ぐには、体内の酸を多くしないよう

アルカリ体質を作ろう

暑さに負けない健康法

食事と適度な休養

うに食べ物をくふうすること、まず第一です。野菜、くだものなどのアルカリ性の食物を多くとり、汗で流されがちなカルシウムを補給するために牛乳などを多くとるとよいわけ

また、暑さで胃腸が弱り、食欲もおとろえがちですから、栄養価の高い消化のよい食物をとるように心がけることです。ビタミンBを多く含む牛の肝臓、ニンジン、のりなどが最適です。

つぎに大切なことは十分休養をとり、よく眠ることです。といっても、それぞれの仕事があつて、なかなか思うようにいかないので「背に腹はかえられない」ということわざのとおり、健康であつてこそその人生ですから、思いきって休養をとることです。八月の健康は、まず食養生と休養からといふことでしょうか。

ヒメユリの保護を

野尻 立て看板で協力促す

県下でも珍しい高原植物「ヒメユリ」の保護を図ろうと、このほど、町は草部や野尻の台地など四カ所にひめゆり乱獲防止を呼びかけた立て看板を立てました。

旧盆入りを前に、このところ町内各地の野山で、草花取りが盛んになってきたようです。とくに草部、野尻地区の両台地は、県下でも随一の野草の宝庫と知られ、四季をとおして多種多様な草花が咲き乱れています。このため、町外からもマイカーで採取に訪れる人



ヒメユリ保護の立て看板を立てる町商工観光課の職員

もあり、近ごろは不心得者による乱獲が目立ちはじめました。

そこで、町およびヒメユリ保存会では、県下でこの地区だけが最も多く咲くといわれるヒメユリが絶滅してはと、保護対策の一環として立て看板の設置を急いでいた

「花いっぱい」に汗流す

高森校区 畜産センター周辺で

高森校区婦人会（山村文子会長）は、このほど町畜産センター敷地周辺に、サルビア、マリーゴールドなど草花約八百本を植え、美しい環境づくりに汗を流しました。

同婦人会は例年、校区内の花いっぱい運動を先頭になって行っており、ことは会組織の一つに保健環境部会をつくったのを機会に、花づくりを試みたものです。

町から草花の種子を分けてもらいコスモスは各支部の道路や公民館にまき、サルビア、マリーゴールドは、大切に会員たちが苗づくり



畜産センター玄関前に草花を植える高森校区婦人会の人たち

ものです。立て看板には①勝手に他人の原野に立入り、ヒメユリ等採取することはできません。

②ヒメユリ等、緑の中に咲く野草を大事に育て、自然を守りましょう！など注意事項が書き込んであります。

自衛艦で体験航海

高森町自衛隊父兄会総会

高森町自衛隊父兄会（佐藤武之会長）の四十八年度総会は、七月二十日三角町信用組合会議室に会

員や来賓約五十人が出席して開かれました。

この会は、子弟を自衛隊に入隊させている父兄が集まり結成しているもので、入隊中の子弟を暖かく支援激励して、自衛隊の発展を図ることを目的としています。総会では昨年度事業報告、決算を承認したあと「会勢の飛躍発展に努め、隊員の慰問激励、町が行なう自衛官の募集と優秀隊員の確保に協力する」などの基本方針をまとめた四十八年度事業計画案と予算を採択しました。

看板も立てました。

山村会長は「畜産センターは町民だけでなく、よそからの利用者も多く、いわば町の顔なので会員一同率先してきれいにしようという心がけています。花は九月上旬には咲きほころび利用者の目を楽しませるでしょう」と話していました。

自衛官募集

二等陸・海・空士を

四十八年度の二等陸、海、空士を次のとおり募集しています。

▽応募資格 十八〜二十五才未満男子。

▽待遇 衣、食、住支給、初任給三万五千六百円。賞与年三回。各種手当、退職金もあります。

▽福利 厚生健康保険に万全を期し、スポーツ、娯楽、売店など厚生施設が完備しています。

※志願案内、受付は役場総務課、または自衛隊地方連絡部へ。



自衛艦を見学する会員たち



< 5 >

四月からシリーズで町文化財保護委員会の諸先生にお願いして「高森その歴史」を掲載していきます。

ヨナ害への怨念

本田 耕 亮

最近、またヨナが降り始めた。中天高く吹き上げるこの地獄の燃えかすは、周辺農民の目には、ただ悪魔の煙としか映らない。ここで過去の阿蘇とヨナの関係の歴史をひもといてみることにする。

奈良朝の頃、阿蘇の主権者阿蘇氏は、阿蘇の火山爆発を自己の勢力拡充の手段として利用している。

既ち「自然の怒りは神の怒りである。阿蘇山の守り神である私がその怒りを鎮めよう」と爆発ごとに、中央政府の出先である大宰府に申出ては、祈願の代償のような形で阿蘇家の地位と領地を徐々に増している。しかし、その趣旨に「地元農民もヨナで困っている

る」とは一言も付け加えていない。七世紀末から明治初期までの約千年の間、阿蘇爆発の記録は六十数回、平均十五年に一回とあり、また、このほかの小爆発は無数である。この爆発と色見との関係で、最も重視されることは、昔からこの阿蘇の東山麓の色見村が最も直撃降灰が激しく、まさにヨナの吹きだまりの村であったのだ。

そして、その灰の中に含まれる毒性が色見住民に与える被害状況は、すでに熊大、および高森町の小林博士により証明されている。一方、人間と同じく牛馬のヨナ害発生は、牛馬商人による買い叩かれの原因となり、また、植物被害における惨状は言をまたない。



ヨナ害を心配する農民

ここにヨナがもたらした悲劇のうち、大きな事件記録を二、三知らせた。

一、享保十九年（一七三四）上色見の百姓百余人豊後竹田へ逃散。

一、大正三年 色見で牛二十八、馬三斃死（白水牛七、馬一、長陽牛三、馬一）

一、大正十三年 松田農場色見の農場経営一年にて失敗。

色見の貧しい瘦土寒冷地農業はまた、一方ヨナ害によって後からは両足を引けられるといったダブルパンチの險しい生活の谷間の道が続いた。しかし、昭和三十年前後を境とする永い永い色見の「トウキビ百姓」のイメージをかなぐりすてた作物転換の歴史的な農業革命は、その機械化と相まってようやく近代農業のあけぼのを迎えようとする。（つづく）

九州青年の船に参加して

◆ 二子石 文雄 ◆

民族衣装や晴れ着を着た原住民も訪れ、「青年の船祭り」という訴えがあった。不思議な賑わった。団員たちの県民意識に街で青年と話すと、復帰はない。甲板には歌、踊りの花が咲き最高の祭りだった。

沖繩入港前夜は船の故障で六で占める特異な県。緑と海の美時間漂流するハブニングがあり、私には不遇の道を経た。沖繩も日本のような気がすることのできる日が一日も早く訪ない。車は右側を走り、車窓から米軍基地ばかり目に映る。守礼門も期待したほどではなかった。ここで海軍艦には当時の自決の跡が物々しく残っており、ひめゆりの塔、健児の塔をはじめ火の国の塔、各県の塔、そして黎明の塔が立ち並んでいる。団員たちは、ここでは自ら黙祈を捧げた。この沖繩の南部地方は、いまなお、ひっそりと寂しい。バスガイドの説明が進むにつれて車内は静まり返り、目頭を押さえる者が目立ち、盛んに唄ってきた「戦争を知らない子供達」の歌はすっかり消えた。

※紙面の都合で詳細にわたり報告できませんでしたが、おわりの交換会が催されたが、そこへ、長い間ご愛読いただきま

（おわり）

「国民年金」に加入しましょう

老後の設計は青年期に

国民年金制度は国が行なう年金制度の一つです。年をとったり、ケガをしたり、一家の働き手が死亡したときに、本人やその家族の生活を保障しようとする制度です。これらの事故に備えて、加入者全員が前もって保険料を積み立て、さらに、国も保険料の半額を負担して、これらの給付に要する財源としています。

若い人たちの中にも年金のことに、ついて知りたいという人たちが、どんどん増えてきています。まだ年金に対する意識が薄く、年金といっても遠い将来のことだからといって真剣に考えようという傾向があります。しかし、近ごろの国民生活の状況をみまると、私たちの寿命は延びてきました。自分の老後の設計は青年期から始めておかねばなりません。現在も、だれでも歳をとります。



また、将来の老令年金のためばかりでなく、最近のあわただしい

高森から一の宮に抜ける国道二六五号線の大戸ノロに立てあるカーブミラーが割られ、通行するドライバーたちから非難の声があがっています。この国道は、四十六年ごろから急速に改良舗装が進み

カーブミラーは泣く

車も走りやすくなりましたが、やはりカーブミラーなしでは危険がいっぱいです。心ないドライバーの割られたものでしょうが、私たち町民は、このような安全施設を大切にしよう心がけましょう。

造り物など賑やかに

二百年の伝統を誇る町恒例の「風鎮祭」は、町および商工会共催で十七・十八日の二日間行なわれます。別名「山引き」とも呼ばれて

いるように、町内各組の工夫された「造り物」が人気を浴び、ことも相当の人数が予想されます。十七日は、午前零時を期して、目ざまし行事で祭りの開幕を告げ、午前十時頃から町内の子どもの手踊り、午後は造り物の出品審査、婦人会による「山引き踊り」や、青年団の「にわか」などある予定です。

十八日は午前八時から高森阿蘇神社で五穀豊じようを祈願、神事のあと、各町内、役場職員などの仮装行列が繰り出され、午後は造り物のパレード「山引き」で祭りは盛り上ります。『写真は風鎮祭のポスター』

17日から

名物風鎮祭

高森の風鎮祭 8月17-18日

造り物大会

熊日納涼花火大会

高森町商工会

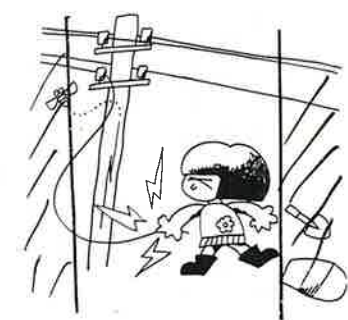
生活では、いつ、どこで、どんな事故にあうかわかりません。このような突然の事故にあっても、国民年金に加入しておれば、障害年金や母子年金をうけることによって安定した生活ができます。二十歳になって、国民年金に当然加入しなければならぬ人はもとより

希望して加入できる人は、本人にとって利益のあることです。いますぐ役場で加入手続をとるようおすすめします。

夏休みを安全に楽しく

夏は暑さによる疲労、気のゆるみなどで電気事故が多く発生してあります。昆虫採集、魚釣り、水遊びとお子さまの夢を大きくくぐらませる楽しい夏休み。この夏休みにも多い感電事故からお子さまを守るため「危ないところでは遊ばないで」とひと言お子さまに……

- 電柱のぼりはやめましょう。
- テレビアンテナなどを扱うときは電線に注意しましょう。
- 電線の近くで飛行機あそびはやめましょう。
- 切れた電線にはさわらないで、すぐ九州電力へご連絡ください。



みんながつくる町民のひろば

声



このらん「声」はみなさんのページです。よりよい高森町を築くために建設的なご意見をお寄せください。

山鳥、丸山一帯の公園化を

下色見校区婦人会長 岩下 代美子

レジャーの盛んな今日、素朴な自然景観が残されている「高森町」でも、各地から訪れるハイカーをよく見かけるようになりました。とくに、私たちの住む下色見地区は春はワラビ取り、夏は山登り

文

「章子、かたもんでくれ」と父が言った。私はしぶしぶもんでやった。もみながらも「いやだなあ、きついなあ」と思った。父にも私の心が伝わったのか、しばらくすると「もういいよ」と

言っつよこになった。

次の日の夕方、母とふたりで草きりに行った。私は、草きりに行くのが、なんとなく好きだった。というのは、母といっし

私の大事な父さん

高森小六年 津留 章子

よに歩きながら、なんでも言いたいことがすらすら言えたり、母の話にも興味があったからだ。いつものように、あぜにこしをおろした。

すると母は、草を切りながらと父の姿が目についた。黒く光

リユックを背負いながら途中で登った人たちに、安らぎを与える休憩所がないのが残念です。この色見登山道は阿蘇中岳への最短登山道であり、途中には行儀松、傘（からかさ）松など阿蘇山にマッチした勇壮な一本松があり、また、近くにミヤマキリシマの咲き誇る丸山も控えています。こうした自然を生かして展望台でもつくったなら、きっとすばらしい観光地になるだろうと思います。

昔は、あの山上まで「登り三時間、下りは一時間」とよく話したものです。登山道が整備されると二時間たらずで行けるようになるでしょう。四十一年からは、傘松

「砂千里間を私たち婦人会の手で道路の下刈りを行なっておりますが、もし、近い将来に登山道の整備がすすめば、率先して桜の木を植え、美しい自然づくりに努力したいと話しています。

工業地帯でみる海岸のように、ヘドロとか、汚染といった公害もなく、美しい小鳥の声、さまざまな四季の草花等の自然を生した観光地ができたならば、高森町からの登山者はまだまだふえることでしょう。

おたずね

コーナー

「問い」 老齢年金は六十歳から支給が始まりますが、この繰り上げ支給を請求できるのは、老齢年金の資格要件を満たした人に限ります。この場合六十歳から六十四歳までの間ならば、いつでも支給を希望したときから老齢年金が受けられます。

「答え」 老齢年金は、六十五歳から支給が始まりますが、この繰り上げ支給を請求できるのは、支給を希望した人の年齢が六十歳から六十一歳までならば、六十五歳から支給される年額の五八％、六十一歳から六十三歳のときは八％、六十四歳から六十五歳未満のときは八九％にあたる額が支給されるわけです。

この繰り上げ請求によって受ける老齢年金の額は、六十五歳になっても本来の老齢年金の額に増額されることなく、死亡するまで変わらないので、繰り上げ支給を受けるのは不利な面もあるわけ



町民文芸



俳句

野尻あけび句会(その二)

この里は夏の天国橋も出来
夏富士の雄姿間近に機上より
ほととぎす庭続きなる裏山に
風鈴や寝るには惜しき月も出て
待ちに待つよき便り来て梅雨晴るゝ
蜘蛛の囀の出来上りたる厨窓
琴の音に足を止めたる夕涼み
茄漬の頃合なりと客人に
何かしてゐれば安らぐホトトギス
五月雨や夕雲迅し祖母の里
いささかの胡瓜に藁を敷きまして

肥後狂句

御神火会六月例会入選句

限 界	あとは我が家で酔うてくれ	浦塚 南天
間 一 髪	俺待った終電車	〃
はじめまして	新茶も火入れなおさんと	林田 一声
打ち破り	鯉に泣きべそ掻く投網	〃
打ち破り	挨拶なし来たダンゾ	岡本 琴司
間 一 髪	両手つかせたはたき込み	〃
限 界	歌にもシワの寄ってきた	白根 音狂
はじめまして	家庭争議の絶え間無ア	〃
はじめまして	火付きの悪うなるモグサ	林田 瑤子
間 一 髪	機転が引火させたった	〃
気の弱さ	一生俺ア片想い	馬原 馬笑
限 界	家庭教師もサジ投ぐる	〃

雑詠

上色見 後藤嘉平(85才)
○長生きをおのが仕事とおもいな
ば老いてもいかに楽しかるらん
○長寿塾の顧問に長野の友を推し
相談役に山城の友
○いつ迄もいついつ迄もいつ迄も
つづけゆきたし長寿塾
○森にゆき太き息してたためば
慰めんとやうぐいすの声
○世の中の情は人のためならず
おのれも人も変らざるなり
○外人の若き女性が訪れぬ
はじめてぞ知る人間の味
○人間のまことの心味わいぬ
八十すぎしこのごろにして

—楽天—

おめでた おくやみ

S 48.6.16. ~ S 48.7.15

出 生		S 48.6.16.～S 48.7.15			
(住所)	(保 護 者)		(出生児)	(性別)	(生年月日)
森	有 川	安 雄	由 紀	女	48. 6.15
昭 和	佐 野	初 実	禎 美	女	48. 4.13
〃	三 森	俊 昭	聖 子	女	48. 6. 9
〃	奥 村	政 次	明 美	女	48. 7.13
〃	東	敬 一	優 子	女	48. 6. 6

S 48.6.16 ~ S 48.7.15

(住所)	(遺 族)	(続柄)	(死 亡 者)	(年令)	(死亡年月日)
西中原	檀木野 享	母	檀木野アサエ	76	48. 6. 20
下 町	古庄あい子	夫	古 庄 巖	56	48. 6. 28
上 在	中川ユリ子	夫	中 川 忠 雄	43	48. 6. 27
永野原	中尾アキエ	夫	中尾 国太郎	68	48. 7. 5
河 原	後藤 末広	長男	後 藤 信 廣	25	48. 2. 27
〃	小出 スミ	夫	小 出 義 保	75	48. 6. 18

香典返し

ありがとうございます

次のかたがたの御逝去に際し、
各方面から寄せられました御芳志
に対する香典返しとして、遺族の
かたがたから町社会福祉協議会へ
御寄付いただきました。
故人の冥福をお祈りし、心から
お礼申し上げます。
上色見 (檀木野アサエ)

二万円

檀木野 亨



下町 (古庄 蔵)
一万円 古庄 愛子
河原 (小出義保)
一万円 小出 スミ
上在 (中川忠雄)
五千元 中川ユリ子
永野原 (中尾国太郎)
一万円 中尾アキエ